

2. 肺の硬化性血管腫

-乳頭状構造および充実性構造の電顕および免疫組織学的研究-

1. はじめに

肺の硬化性血管腫は稀な良性腫瘍である。その構成細胞については論議のある所である。今回、我々が経験した7例の硬化性血管腫について電顕的および免疫組織学的に検討を行った。

2. 材料および方法

肺の硬化性血管腫と診断された7例の摘出材料を用いた。症例の平均年齢は43.1歳であり男女比は1:6と女性に多くみられた。腫瘍はすべて肺下葉にみられた。免疫組織学および電顕的検索も施行した。

3. 結果

腫瘍は光顕的に間質の線維化や出血などとともに乳頭状構造と充実性構造がみられた。表1は免疫組織学的結果を示す。全例でファクターⅧは陰性であった。乳頭状部分ではEMAが7/7、ケラチンは部分的に染色され6/7に陽性であった。ビメンチンは1例で弱陽性であった。充実性部分ではビメンチンは7/7で陽性であった。アポプロテインは1/7で一部の細胞に陽性であった。

電顕的には乳頭状構造を示す上皮の一部に胞体内にlamellar bodyがみられた。また胞体の表層近くに分泌顆粒様の像とともに胞体内にグリコーゲンを有する細胞もみられクララ細胞を思わす像を呈していた。充実性部分では未熟な間質細胞からなり円形のミトコンドリアやグリコーゲン顆粒を伴っ

ていた。少数だがⅡ型様の肺胞細胞やクララ細胞様の細胞もみられた。

4. 結論

1) 今回の検索では免疫組織学および電顕的にも内皮細胞を思わす像や中皮細胞由来を思わす像は認めなかった。

2) 乳頭状構造では免疫組織学的にアポプロテインが陽性を示す細胞が多く、電顕的にもlamellar bodyを有するなどⅡ型肺胞細胞を思わす像が多くみられた。充実性部分でもごく少数の細胞にⅡ型肺胞細胞様の細胞がみられた。

3) 電顕的にクララ細胞と思われる像を充実性部分のみならず乳頭状部分にも認めた。

4) 充実性部分はやや幼若な間質細胞を思わす像で一部にⅡ型肺胞細胞を思わす像がみられ充実性部分の細胞から乳頭状細胞への移行も考えられた。

(本研究は病院病理部との協同研究である。)

表1 肺硬化性血管腫の免疫組織学的結果(陽性例/全症例)

増殖像	Apoprotein	EMA	Cytokeratin	Vimentin	FaⅧ
乳頭状	(7/7)	(7/7)	(6/7)	(1/7)	(0/7)
充実性	(1/7)	(2/7)	(0/7)	(7/7)	(0/7)

EMA; Epithelial membrane antigen,
FaⅧ; Factor Ⅷ-related antigen